

全作物共通

- ①気温低下に応じた生育適温を確保しましょう。また、ハウス内の湿度に留意して換気を行い病害の発生を防ぎましょう。
- ②翌年の栽培に向け土壌診断を実施しましょう。
- ③農薬の安全使用に細心の注意を払いましょう。希釈倍率や使用時期を守り、適切な保管、管理を行いましょう。
- ④農作業事故等が発生しないよう、機械整備や体調管理には十分留意しましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

ハウス土壌の透排水性を改善しましょう

【ほ場の心土破碎】

作物の根の伸長や排水を妨げる耕盤層の対策としては、サブソイラ等による心土破碎が有効です。心土破碎は深耕に比べて、土壌の物理性改善効果が大きいとされています。機械はサブソイラの他に、プラソイラ等があり、それぞれの作業性や効果を考慮し、目的に応じた方法を選択して実施します。



《心土破碎の工法と期待される効果》

工法	耕盤層対策	排水対策	施工機械
心土破碎	○～◎	△～○	サブソイラ・ハラソイラ
幅広型心土破碎	◎	○	プラソイラ・ハーフソイラ

【ハウス周辺の明きょ】

短時間に強い雨が降った際、ハウス外からの雨水の浸透や浸水を軽減するため、ハウス周辺の明きょの施工を検討しましょう。明きょは排水路につなげる必要がありますが、直接つなげられない場合は、明きょの先に穴を掘って雨水ますを設置し、ポンプを活用して排水している事例があります。

ハウス周辺明きょの事例



排水ポンプでくみ上げて排水路へ流す

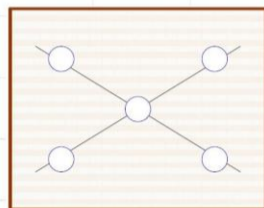


明きょから流れてくる水

土壌分析を実施しましょう

土作りの第一歩は土壌診断です。3年に1度は土壌診断を行い、施肥設計に活かしましょう。

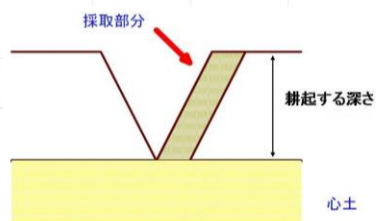
【土壌の採取方法】



土壌の性質は、一筆のほ場の中でもかなりのばらつきがあります。

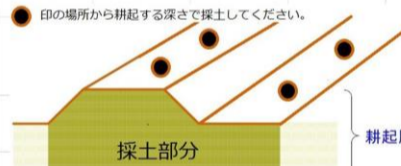
生育に差が見られない場合は、対角線に5か所以上を採取し、よく混ぜて一つの分析用の試料(500g程度)とします。(図1)  
 生育に差が見られる場合は、それぞれを同様に採土してください。

図1 土壌の採取位置



このとき、表層部を薄く剥いだ後、耕起する深さまでV字型に掘り、その面に沿って一定の厚さで採土します。(図2)

図2 土壌の採取深さ



野菜畑などでうね立てしてある場合は、隣のうねにかけて採土するか、うねとうね間を交互に採土します。(図3)

図3 うね立てしている場合の土壌の採取位置

申し込み時期、分析料金などについては、農協等にお問い合わせください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域（旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町）向けに作成されています。  
 気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
 （不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません）  
 ※掲載されている農薬情報は、平成29年9月13日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■  
 【環境整備編】 一次年度に向け、秋のうちにできることを行いましょうー

- 本年も突発的な激しい降雨が見られました。地形や土地条件によっては、雨水の流入による作物被害の発生も懸念されます。
- 本年、被害を受けたほ場や被害を受ける可能性がある場所を再度確認し、秋のうちに対策を図っておきましょう。
- 次年度の作付けに向け、土壌分析を実施しましょう。分析結果に基づき、適切な施肥計画を立てておきましょう。



ほ場周りの明きょ設置で安定生産を！